



# てんきすと

## ウェザーワールド2001

“ウェザーワールド2001”ロゴマーク

2年に1回開催されるアジア最大の気象イベント「ウェザーワールド2001」が2001年2月23日(金) 24日(土) 大森ベルポート(東京都品川区)で開催された。今回は「気象におけるIT革命」をメインテーマとして、気象情報を送る側と受ける側が一体となって「気



イベント実行委員長木村龍治会長による挨拶

象」をより身近に感じることができるイベントを目指して開催された。2日目はあいにくの雨模様であったにもかかわらず、週末ということもあり、多数の来場者(公式入場者数19,500人)で賑わった。前々回(1997年)、前回(1999年)同様、気象予報士会は各イベントの中心的役割を担い、当イベントを大いに盛り上げた。

1日目(2/23)は、まず当イベント実行委員長でもある木村龍治会長が挨拶をし、2日間にわたるイベントがスタートした。午前中「いすゞホール」では、基調講演・特別講演およびシンポジウム「気象におけるIT革命」が行われ、午後にはシンポジウム「旅と気象」が行われた。午後のシンポジウムでは、島村泰介会員が「鉄道と風の関わり」と題して講演をした。また、1日目のコーディネータは、シンポジウムが藤堂憲幸会員、シンポジウムが小西雅子会員と、いずれも当会会員が担当した。

2日目(2/24)「いすゞホール」では午前中シンポジウム「環境・教育と気象」が行われた。午後には、本イベントの目玉である「楽しいお天気講座(Enjoy Weather School)」が開催され、小中学生が楽しそう

に授業を受けた。富沢勝幹会長のユーモアに富んだ授業が印象的であった。2日目は両イベントとも藤本慶信会員が司会進行を務めた。

両日ともアトリウム(展示会場)では、気象およびIT関連の約30の企業・団体がブースを展開し、自社製品の宣伝活動等を行った。当会もブースを展開し、気象予報士試験の受験対策と題して、気象予報士を目指す受験生のさまざまな相談に乗った。ブースの装飾用にある会員が用意した「てるてる坊主」が子供たちに好評で、希望があればその場でプレゼントするといった、ほのぼのとした一場面も見られた。

ステージ上ではアトラクションとして、お天気ウルトラクイズ、ウェザーキャスター・チャリティオークション等が開催され、親子連れや気象ファンで賑わった。



ウェザーキャスター勢揃い

また、隣接するパソコンブースでは、パソコン教室「来て見て触れよう気象データ」が開催され、インターネットやCD-ROMの気象データをパソコン画面に表示して利用する実習が行われた。ここでは、小川豪幹事をはじめ当会会員がインストラクターを担当した。

閉会式では木村龍治会長が挨拶をし、2日間に渡るイベントは幕を閉じた。

お忙しい中、2日間にわたってボランティアスタッフ、講師、司会としてご協力して下さった当会会員の皆様にこの場を借りて感謝する次第である。

(高木敏明 会報担当幹事)

# 「Enjoy Weather School」

富沢 勝 幹事長)

参加校 大田区立馬込第二小学校

大田区立馬込東中学校

筆者はウェザーワールド2001「Enjoy Weather School」において、気象に関する授業と、参加者42名を7チームに分け、各チームが気象予報士となって翌日の東京の天気を予報し、その根拠等を述べるという実習講座を担当した。

この講座は2000年9月に実施された「楽しいお天気講座 (Enjoy Weather School)」(主催:大阪府立青年の家)をこのウェザーワールド2001において再現したものである。

講座は藤本会員の司会進行で始まり、講師は筆者が担当した。

前半の気象に関する授業では、気象観測の説明から始め、風車型風向風速計と転倒ます型雨量計の実物の紹介等も行った。

その他、「アメダス」、気象衛星「ひまわり」、「世界の観測点」、「偏西風」、「秋晴れ」、「台風」、「秋の長雨」、「冬型気圧配置」、「春一番」等について、パソコンを使用しながらやさしく説明した。

後半の実習講座では、教材として、天気図、レーダ

アメダス解析雨量、ひまわり画像、各地の天気実況資料(一昨日、昨日、今日の午前6時の資料)を用い、各チームに天気予報を実際に行ってもらうとともに、その予報を出した根拠を述べてもらった。

各チームの名前と作成した翌日の予報の結果は以下のとおりである。

| No | チーム名              | 予 報     |
|----|-------------------|---------|
| 1  | ニュースの林            | 雲のない晴れ  |
| 2  | ニュースの森            | くもりのち晴れ |
| 3  | UHK               | 雨のち晴れ   |
| 4  | スペースニュース江戸時代バージョン | くもり     |
| 5  | ムームーノックノック3号      | くもり時々雨  |
| 6  | 乙女天気予報に感動         | くもり     |
| 7  | 楽しい天気予報           | 小雨      |

前半の授業において、中緯度地帯にあるわが国は偏西風の影響下にあり、天気の基本は西から東へ変化していくことを強調したつもりであったが、一部チームは資料を深読みしたのか、天気が逆に変化すると勘違いし、雨の予報を出したところが3チームあった。

しかしながら、各チームともしっかりと自分たちの予報根拠を述べていたのが印象的であり、楽しい肩のこらないひとときであった。機会があればまた当会で行いたい。

## フォーラム「環境・教育と気象」

藤本慶信 会員(大阪)

私は「ウェザーワールド2001」に、フォーラム「環境・教育と気象」のコーディネーターと「楽しいお天気講座 (Enjoy Weather School)」の司会・進行役として参加させていただきました。フォーラムは、学校教育における気象教育の話に始まり、環境問題の解決や気象を社会活動に応用した有意義な講演(事例発表)が行われました。次に、4名の講師方々の発表の概要を紹介します(敬称略)。

### ●山下 晃(大阪教育大学教育学部教授)

「理科の基礎を教える楽しい気象実験」というテーマで、小学生に空気と水の性質を正しく教えるための実験、中学生に楽しく解りやすく圧力を教える実験、雲を作る実験等の実践例を紹介。展示ブースにおいても、実際の実験装置を展示・実演。

### ●牛山 泉(足利工業大学教授)

「環境問題と風力発電」というテーマで、近年地球規模で環境問題が顕在化しつつある状況下で、クリーンエネルギーである風力発電システムについての開発及び利用の現状の報告と課題について提言。

### ●山下 進(新潟銘醸株式会社)

「雪は天からの贈り物 - 利雪遊雪親雪」というテ

マで、雪をマイナスイメージとして捉えるのではなく、雪を大いに利用し、親しみ、資源として利用している事例を発表。展示ブースでは冬に雪を集めて作った実験施設「雪蔵の里」で貯蔵保存された清酒の試飲コーナーを設置。(とてもおいしかったです)

### ●張替 次雄(帝都高速度交通営団)

「車両冷房100%までの経緯と車両技術の進歩」というテーマで、地下鉄という非常に困難な条件の中で、車両冷房100%にするまでの苦労話と技術の進歩について発表。

「楽しいお天気講座 (Enjoy Weather School)」は、子どもたちが講師の気象予報士から天気予報の方法を聞き、グループに分かれて天気の予想をして「お天気番組」という形で発表する講座です。今回は、会場の近くの小学校4年生から中学校2年生までの希望者約40名が参加し、講師を気象予報士会の富沢幹事長にお願いし、私は司会・進行役をしました。参加者の年齢や知識の差が大きく対応に苦労をしましたが、どのグループも創意工夫をこらしたとても立派な発表をしてくれました。今後も日常生活の中でお天気に関心を持ってくれることと思います。

ウェザーワールド2001は、私にとっても非常に有意義な2日間でありました。参加できる機会をつくって下さった気象予報士会、(財)気象業務支援センターの皆様にお礼を申し上げて、私の報告をおわります。

## 盛況でした！ ウェザーワールド2001

藤井 聡 会員(静岡)

2月23、24日にウェザーワールド2001が大森ベルポートにて開催されました。このイベントにおいて、気象予報士会として、出展ブースを出し、気象予報士受験相談をすることになりました。私も参加させていただきましたが、この2日間、いろいろなことがありました……。

朝早くから来られた前田陽男さん。机を並べたり椅子を並べたり、そして、持って来られた天気図を壁に貼っていました。天気図は、壁の飾り兼、気象予報士会会員が天気図をネタに「騒ぐ？」ための小道具ということなので、それを見ながら「どうやって騒ごうかな？」などと考えることにしました。



気象予報士会ブース全景

しかし、このブースでは「気象予報士受験相談」ということで出展、「難しいこと聞かれたらどうしよう……。特に物理のことなんて何も……。」「でも、他の気象予報士の方々が来てくれているから、そういうことはおまかせしちゃおう！」などと調子のよいことを考えて椅子に座りました。



受験相談で賑わうブース

さっそく、受験相談のお客さんが来ました。話を聞いていると、気象が大好きで、詳しい記録もよく覚えていて、なんか、負けそう…などと思ったりしました。そんな人たちに熱心に指導してくれたのが荒川修一さん。「問題集を徹底的にやるしかない！」と意気込んでいました。そっくりな娘さんを連れてきた高橋正己さん。「大きくなったら、お天気キャスターになるんじゃないの？」と言うお父さんの声に娘さんは「私、ケーキ屋さんになるの～」と言っていました。

こうしているうちに時間は早く過ぎました。「疲れるう～」というような雰囲気のを和らげてくれたのは、三代みどりさんでした。話を彼女にバトンタッチすると、温かな雰囲気になりました。

他にクイズに出たり、参加賞をもらったり、楽しく話をする事ができて良かったです。

## 「気象予報士会ブース」

三代みどり 会員(東京)

2001年2月23日(金)と24日(土)に東京の大森ベルポートで「ウェザーワールド2001」が開催されました。

24日(土)は前日の好天とは打って変わって早朝から冷たい小雨の降り頻る寒い一日となりました。

このイベントには気象予報士の方々の懇親の場、気象予報士受験相談の窓口として当気象予報士会からもブースが出展されていました。ブース周辺には上妻美砂恵さんがカラフルな布で作られた手の込んだかわいいてる坊主が飾り付けられ、天気図を貼り廻らせたブースに花を添えていました。

ブースには多くの気象予報士の方が東京以外の遠方からも立ち寄られ、気象の話や様々な話題で話が盛り上がり会場では一番賑やかな場所となっていたと思います。また日本テレビのお天気キャスターの木原実さんも



入会手続き中の気象予報士

立ち寄られ、その場で快く当気象予報士会への入会手続きをなさってくれました。また一人心強い仲間が増えたことをとてもうれしく思います。

気象予報士の方以外にも受験者の方が多く立ち寄られ「どういう勉強をしたら良いか」「お薦めの参考書は」「スクールは」など相談されたり、第15回試験の後とあって試験問題について質問されたり一緒に解答を考えたりしました。どの受験者の方も本当に熱心で、気象に対する思いはみんな同じなんだとつくづく思いました。

盛況の内に閉会を迎えた後は、近くの居酒屋で打ち上げ兼親睦会が行われ、会員の方々とより親睦を深めることが出来、本当に有意義な一日を過ごすことが出来ました。次回のウェザーワールドにも是非一人でも多くの会員の方が参加されることを期待しています。

最後に、幹事の皆様、参加された会員の皆様本当にお疲れ様でした。

### カナダの太陽柱



撮影日時：2000年11月2日 午前6時40分

撮影者：平川昭夫 会員(神奈川)

撮影場所：カナダ、マークハム市内（トロントの隣り）

撮影条件・気象条件：

出張最終日の朝、部屋のカーテンを開けるとこの現象が見られました。見た瞬間に「子どものころ、図鑑で見た！」とわかりましたが、太陽柱という名前は、そのときはわかりませんでした。「なんか珍しい、アレ」という感じでした。

気圧配置はシカゴの北に低気圧があって、寒冷前線が東に盛り上がりながら南西に伸びていました。マークハム市はその前線の前面にあたり、上空は強風が吹いていました。この現象は6時半から日の出（7時）まで見られました。日の出後は、急に薄くなりました。幻日部分が上下に動くことはありませんでしたが、日の出まで時間の経過とともに、縦に伸びたり、中心にまとまったりしていました。

### 朝焼けの渦雲



撮影日時：1999年9月6日 午前4時半～5時頃

撮影者：真鍋千秋 会員(神奈川)

撮影場所：乗鞍岳 畳平下 東方霧が峰方向を望む

撮影条件・気象条件：

乗鞍岳山頂は雲の中で雨、乗鞍高原は曇り午後には甲斐駒が岳も雲に隠れました。

## ■ 関西気象予報士会「1か月予報」勉強会

山田 薫 会員(京都)

2月3日(土)の午後、京都府との境に近い大阪府の北端、島本町にある大阪府立青年の家において、関西気象予報士会の勉強会が、「1か月予報について」をテーマに開かれました。

折しも節分寒波となったこの日、関西各地から約30名の会員が集まり、夕刻までの時間、1か月予報についての熱心な勉強会が行われました。

講師は関西気象予報士会の富田正夫会長が自ら務められ、気象庁在職時に長期予報を担当された経験に加えて、最新の予報技術を加えた非常に内容の濃い整理された講義となりました。

講義は、

1. 長期予報と短期予報の違い
2. 日本付近の循環場の特徴
3. 長期予報の統計的手法
4. 大気の予測可能性
5. アンサンブル予報

6. 1か月アンサンブル数値予報

7. 1か月予報ガイダンス

と順を追って進められ、分かりやすいレジメとOHPを使って行われました。

最後の「1か月アンサンブル数値予報」と「1か月予報ガイダンス」については、500hPa高度場、平年偏差の実況解析図、アンサンブル平均図、スプレッド高度偏差確率図、それに各種時系列図が示され、更に、各種ガイダンス資料と1か月予報が示されて、実際にどのように1か月予報を行っているのかが解りやすく説明されました。

しかし、いくら解りやすい説明であっても、1か月予報は今まで見慣れていた短期予報の各種天気図とは大きく異なり、又理論の面でもローレンツアトラクター、アンサンブル予報等、非常に難解な内容を含み、戸惑いを隠すことはできませんでした。この3月からは、アンサンブル予報が10メンバーから26メンバーによるBGM法に変更になる予定で、第2回、第3回の1か月予報勉強会が開かれることを望みたいと思いました。

終了後は場所を移し、鍋を囲んで、参加者同志の話もはずみ、とてもいい節分の夜となりました。

.....

## ■ 淀川ダム統合管理事務所見学会報告

鈴木愛二郎 会員(大阪)

2001年2月23日(金) 関西気象予報士会第4回例会として、国土交通省近畿地方整備局淀川ダム統合管理事務所の見学会が行われました。平日にもかかわらず、関西気象予報士会富田会長、同正木副会長をはじめとして14名が参加しました。愛媛から濱田会員も参加頂きました。当事務所は、大阪府枚方市の小高い丘にあり、周囲の中ではひととき目立つ近代的な建物です。なぜこんな川とは縁のない場所にあるのか不思議に思いましたが、広くて整備された指令室に案内され、当事務所広域水管理課の北野正朗課長の説明を聞いて納得しました。当事務所は淀川水系の洪水、渇水等の自然災害による被害を最小限に止めるため、淀川水系にあるダムや堰をコントロールしています。河川状況や気象状況をリアルタイムに把握して流水管理をする仕組みとなっています。

淀川水系は琵琶湖を中心に滋賀、奈良、三重、京都、大阪、兵庫に広がり、流域に1,063万人の住民がいる水系で、当事務所はその住民の安全と水資源の確保という重要な仕事をしています。

流水管理では、淀川水系のどこに、どれくらいの降水があるのかを予測し、ダムの水量を調整する必要があり、その判断の資料として気象情報が重要なウェイトを占めています。当事務所では気象庁からの情報と独自のレーダー雨

量システムのデータから各種の降水予測システムを使い、降水の予測を基に各ダムの操作を行い、流域の安全を確保しているとのこと。降水予測システムには、低気圧や台風の進路別の降雨予想や流域ごとの週間降雨予測などがあり、中でも近畿に2台のレーダーを持つ独自のレーダー雨量システムと、気象情報を組み合わせて4時間先までの予測雨量を計算するシステムには感心しました。また、このレーダー情報については国土交通省がインターネット上に公開するような話もあるそうで楽しみです。

質疑応答では、色々な質問に丁寧に回答を頂きました。参加者からは、気象予測は豊富なデータを使って最終的には人間が判断するので、このような優れたシステムがある職場で気象予報士がもっと活躍できるようになればよいとの要望がありました。ご多忙の折、2時間も詳しく説明をして頂いた北野課長に感謝しながら見学会を終了しました。

続いて開かれた懇親会では、スケジュールの都合で見学会には参加されなかった関

西気象予報士会藤井副会長も駆け付けていただき、賑やかに参加者の交流が行われました。今回見学した当事務所で働いておられる和田光明会員の現場での苦労話や興味深い話、そしてあのすばらしいシステムは実は関西気象予報士会平松幹事の仕事だと言う話題で盛り上がり、盛況の内に第4回例会は終了しました。今後も定期的に勉強会、見学会は行われますので地域にかかわらず参加されるようお勧めします。



淀川ダム統合管理事務所

## 気象企画展「君も気象予報士」

中原定雄 会員(岐阜)

全国の皆さん、東海支部で取り組んできました気象イベント「君も気象予報士」が無事、成功裡に終了致しましたことをここにご報告させていただきます。

開催期間(3/17～3/31)中の来館者は約2万名弱、参加した気象予報士仲間は延べ約80名に及びました。全国から多くの仲間が駆けつけてくれて、イベントも大いに盛り上がりました。参加並びにご協力いただいた皆様に対し改めて御礼申し上げます。

さて、今回のこうした企画へ参画することとなったきっかけは、東海支部が通常の例会(月に一回の天気図検討会などの勉強会、見学会、講演会)にとどまらず気象予報士を社会的にPRし、支部の仲間の活動の場を広げ、かつ結束を図る機会を常々意識し、行動していたことに始まります。折から、名古屋市科学館が気象に関するイベントを企画していることを掴み、気象予報士会をPRできる絶好の機会と捉え積極的に参画してきました。そして、企画の検討を進める中で、企画内容や展示内容はほとんど東海支部の意向に沿って決めることができました。また、メインテーマもズバリ「君も気象予報士」という気象予報士会をPRするのに絶好の内容にすることができました。

しかし、同時に大きな責任を負うことにもなり、開催ま

での約半年間の準備は東海支部にとっては、時には過大な事業ではないかと感じることもありました。

そのような状況の中でも、挫折することなく、成功裡に終わらせる事が出来たのは、今回イベントを「何としても成功させるんだ」という強い意志のもと、忙しい仕事の合間や休日を返上して、企画内容の検討や作業に積極的に参加してくれた東海支部の仲間たち、そして、惜しみない協力をいただいた他の支部の方々のおかげでもありました。

この企画展において東海支部が取り上げたテーマの主なものは、気象予報士(会)をPRした「あなたもなれる気象予報士」、東海豪雨をテーマにした「気象と災害」、現役のカスターの協力による「あなたもお天気カスター」、気象予報士の丁寧な説明のもと「天気図を書こう」および「お天気相談」等でした。

東海支部としては一昨年の「防災フェア」に続き、今回のイベントを成功させたことで、大いに自信を得ることができました。これからも社会に対して大いに発信し、積極的にかかわっていかうと思います。また今後も全国の皆様にさまざまなご協力を依頼することになるかと思ひますので、その折はよろしくお願ひいたします。

なお、今回のイベントで作成したパネル(気象予報士とは、気象予報士会の紹介、気象予報士の活躍分野の例、東海豪雨関連)や映像、写真、データなど多数あります。もし、展示会やイベントで使いたいときはご連絡下さい。

## 除雪ボランティアに参加して

常盤直哉 会員(神奈川)

新潟県の募集した除雪ボランティア(雪ほりボランティア スコップ2001)に個人で参加したので、概要を報告する。

この活動は、豪雪地帯で自宅等の積雪に困っている方の除雪をボランティアにて行うというもの。新潟県各市町村からの雪ほり(除雪)依頼を県雪対策室が取りまとめ、登録者へ電話やメールで通知するという仕組み。活動は1月から3月中旬の土日祝。

この募集を1月初旬新潟県庁のweb site閲覧中に偶然見つけて、登録した。県職員によると、本年度の登録者は約180人。筆者の元には本年度計3回の要請があり、そのうちの一回、新潟県南魚沼郡大和町(3月3日(土))の依頼に応じた。

大和町は上越新幹線浦佐駅のある人口16,000人弱の町。スキー客を横目に朝9:00に役場に集合。当日の参加メンバーは県内を中心に町職員を含めて計17人。スキーウェア、長靴という万全(?)の装備で、地元の方の指示に従い2班に別れて町職員の車で対象者宅計4軒を訪問、除雪を行った。

大和町に程近いアメダスポイント「小出」の当日の積雪

は160cmほど。主要道路の除雪は完全だが、路地や宅地内は残ったまま。神奈川県在住の筆者は、身丈の積雪に改めて驚くが、雪の重さをはじめて実感した。除雪作業はスノーダンプとスコップの人力で行ったが、新雪の下に圧雪された雪は想像以上に固く重く、作業開始ほんの数分で汗だくになるほど。また取り除けた膨大な雪の処理にも頭を悩まし、融雪溝や空き地に捨ててもすぐに一杯になってしまう。作業をしながら地元の方々から今冬の降雪状況や、1月の大雪時の苦労話などもうかがうことができた。余談ではあるが、メーリングリスト上でも話題になった黄砂を含むと思われる黄色味かった積雪を数層確認した。訪問者宅に感謝されて、14:30にはすべての作業を終了して解散した。

町職員の説明によると、除雪作業に対して先にスタートした介護保険適用の検討をしており、今回はそのテストとしてボランティアを依頼。限られた予算内ですべてを賄うことは難しく、このような協力を得る必要がある、とのこと。

冬季の降雪状況は防災の観点からも気象予報士の関心事の一つである。個人的には除雪の苦労を身をもって知る良い機会となったが、それとともに気象予報士の社会貢献の一つの方法として、皆様の気象予報士活動の参考になれば幸いである。

### 編集後記

早いもので当会の定期総会も今年で6回目を迎えることになりました。幹事会では、発展期における会の運営をさらに円滑に進めるために「ホームページ委員会規定」「業務委託細則」「幹事会旅費規程」等の各種細則を明文化することを考えております。同封の議案書にもその文案が盛り込まれております。

会報「てんきすと」では、引き続き会員の皆様からのご投稿、ご意見をお待ちしております。(編集子)

気象予報士会に関するお問い合わせは下記E-mailアドレスまでお願いします。またホームページの方も今後随時更新していく予定です。

気象予報士会 E-mail: yohohead@mb.infoweb.ne.jp

ホームページ <http://village.infoweb.ne.jp/yoho/>

発行日 2001年4月30日 発行人 木村龍治 発行所 気象予報士会◎ 編集協力 (株)第一プランニングセンター